



令和元年11月14日

報道関係者 各位

国立大学法人帯広大学大学

ワークショップ：

「ロボット車両の導入による自給飼料調製作業における労働時間削減の可能性」のご案内

革新的技術開発・緊急対策事業 経営体強化プロジェクト
酪農サイレージ調製作業ロボット化コンソーシアム
代表 帯広畜産大学准教授 花田 正明

近年、道東地域を中心とした酪農地帯では経営規模拡大の一方で、慢性的な労働力不足に直面しており、ロボットの導入もしくは作業の外部委託化などにより労働時間の削減に取り組まれています。搾乳作業や飼料給与などの一部の飼養管理作業ではロボット導入により労働時間を削減できるようになってきました。しかし、作業の外部委託化では、委託作業量の増加に伴い委託先における労働力確保が難しくなりつつあります。特に自給飼料調製作業のように季節性の高い作業では作業者の不足が深刻な問題となり、自給飼料調製作業においてもロボットの導入による労働時間の削減が期待されるようになってきました。このようなことを背景に酪農サイレージ調製作業ロボット化コンソーシアムでは 2017 年度より農林水産省の革新的技術開発・緊急展開事業において「有人車両とロボット車両によるサイレージ踏圧作業体系の開発」に取り組んでまいりました。そこで今回は、本事業の研究成果を皆様にお伝えするとともに、ロボット車両の導入による自給飼料調製作業における労働時間削減の可能性について意見交換させていただく機会を、下記のとおり設けました。

つきましては、本ワークショップの周知及び取材についてご協力をお願いいたします。当日取材いただける場合は、11月29日(金)までに下記お問合せ先にご連絡いただきますよう併せてお願いいたします。

記

主催：酪農サイレージ調製作業ロボット化コンソーシアム

共催：北海道畜産草地学会、北海道酪農・畜産研究ネットワーク

日時：2019年12月6日(金) 13:00 から15:30

場所：JA 道東あさひ2 階会議室 (所在地：別海町別海緑町116 番地9)

内容：1. プロジェクトの概要

酪農サイレージ調製作業ロボット化コンソーシアム

- 1) JA 道東あさひ管内の酪農規模の動向と課題
- 2) ロボット車両ベース機の紹介
- 3) 踏圧および刈り取り作業における自動走行プログラム
- 4) サイレージパッカーの踏圧効果
- 5) ロボット車両導入による労働時間削減効果

2. 酪農における自動化導入の展望

北海道立総合研究機構酪農試験場 金子 剛

3. 総合討論

お問い合わせ：帯広畜産大学産学連携センター
藤倉 雄司(とうくら ゆうじ)
Tel:0155-49-5786
E-mail:crcenter@obihiro.ac.jp